



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



毎月・毎日、何かの記念日があり〇〇の日というのがあります。

10月も1日は10.01でメガネ日に始まり31日の日本茶の日まであります。臨濟宗の開祖栄西が宋から帰国し茶の種をと製法を持ち帰ったことから日本茶の始まりとして記念日にしたそうです。これらはごく一部で他にもたくさんの記念日があります。

そうした中、10月8日を鳥羽の日とし、かつ10月を鳥羽の月とされていることをご存じでしょうか。

日は語呂合わせ、月は10月=October(オクトーバ)から、地域で組織する実行委員会で作られたそうです。ということで今回は、鳥羽市の話題をお届けします。



鳥羽市からのご紹介 ~「海のシリコンバレー」から、新たな流れを期待して~



鳥羽市 中村欣一郎市長

第六次鳥羽市総合計画では、将来像を「誰もがキラめく鳥羽 海の恵みがつなぐ鳥羽」とし、将来に向けて、皆が活躍し、地域資源を最大限に活用していくことを目指しています。

伊勢志摩地域は観光地であるため、地域資源と言うと、「食」や「景観」がクローズアップされることが多くありますが、実は、恵まれた自然環境を背景に海に関する研究機関や教育施設が立地しています。

鳥羽市周辺は海の生物にとってとても豊かな海域です。「豊穡の海」とも言われるこの海は、広大な森林を背後に持つ木曾三川から流れ出るミネラル豊富な伊勢湾の海水と、熊野灘を北上する黒潮の潮流とがぶつかり合う好漁場となっています。

こうしたことから、本市の水産研究所や隣に建つ三重大学の水産実験所はもとより、様々な研究・教育機関が点在し、それぞれが先進的な研究を行っており、まさに「海の恵みがつなぐ」縁が生まれています。

この鳥羽市を中心とする研究機関が集まる素晴らしいフィールドを、ここから新たな事業が生まれるのではないかと、本市の産業や教育に大きな影響が出るのではないかと期待を込めて、「海のシリコンバレー」と呼んでいます。

これらの機関の連携を強化することで新たな関わりが生まれることを目指し、10月1日(土)に、関係機関で「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」協定を締結しました。またこれを記念し、「海のシリコンバレーシンポジウム」も開催しました。

シンポジウムでは、各機関の研究テーマの紹介や使命と考えていることのほか、実際に地域で取り組んでいることや次世代育成に向けての思い等が語られ、それぞれの施設が相互理解を深めることができました。

今後の展開に期待を寄せているところです。

SDGsまなブック

鳥羽市では、海辺等の豊かな自然の中で住民生活が営まれており、海の環境を守る活動や持続可能な暮らしを送るための工夫が行われています。これらは、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)の考えにも通ずるところがあり、鳥羽の魅力の本質的な部分だと言えます。

この度、地域の魅力を通じて学ぶことができる様々な体験プログラムを取りまとめたパンフレット「鳥羽のSDGsまなブック」を作成しました。鳥羽での経験を通じて、「社会を支える」「経済の循環」「環境を守り、活かす」という点から地域課題を考えていただく一助となればと考えています。

海藻博士のお仕事体験

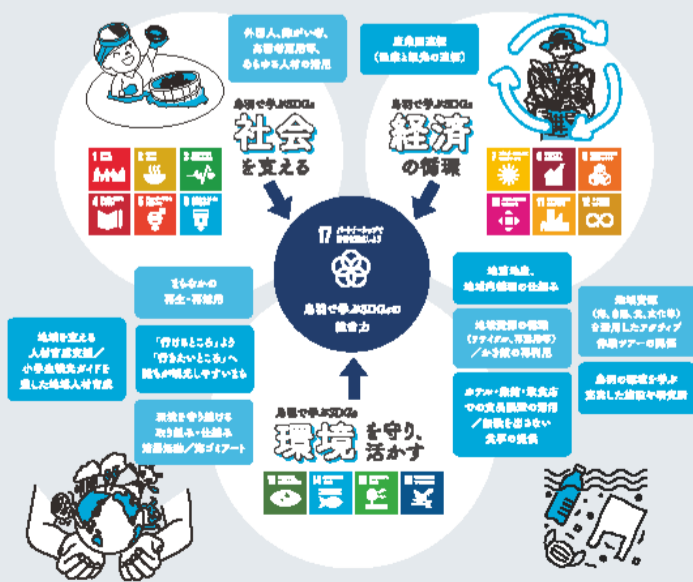
研究機関の知見を教育に活かす一環で、市水産研究所では、市内の子ども達を対象に「海藻博士のおしごと体験」を開催しています。水産研究所の職員が海藻博士として生物の分類・観察や海水の飲み比べなどの指令を出し、子どもたちが挑戦していく中で、鳥羽の海に関する理解を深めるとともに、鳥羽の水産業について新しい発見をする機会となっています。また、SDGsの目標のひとつである「海の豊かさを守ろう」を学ぶ取り組みとして、企業に協賛いただき稚魚の放流体験を行っています。



ひと目でわかる 鳥羽のSDGs



鳥羽ではさまざまな分野でSDGsの取り組みが行われています。地域全体で社会を元気に、環境を守り、豊かさを創出し、それぞれの取り組みは、SDGsで定められるそれぞれのゴールに向けての取り組みであり、最終的にはそれらの協力力で、持続可能な社会を創り出しています。鳥羽にお越しの際は、ぜひ鳥羽の取り組みやSDGsの取り組みをご案内いただき、体験していただくことが可能です。



“まちづくり”ではなく、“まちあそび”をする地域おこし協力隊

鳥羽市答志島地域おこし協力隊 正林泰誠

私は令和4年4月より東京大学大学院を1年間休学して鳥羽市の離島答志島の地域おこし協力隊として活動しています。漁村の建築・集落研究の論文で答志島を知り、何度か訪れているうちに島の文化に惹き込まれ、実際に住んで建築活動をしてみたいという気持ちが芽生えました。活動内容としては喫茶店兼土産物店だった空き店舗を改修して、答志島の新たな教育拠点「ねやこや」を製作していくことです。活動の中で3つの意識していることを今回ご紹介したいと思います。



①島の教育の魅力化を目的とした多様な交流を作る

「ねやこや」は島留学*の子どもたちの宿泊場所かつ、島の子たちの放課後の居場所として現在進行形で改修されています。ただし、ただの教育拠点ではなく子どもたちが多様な人と交流し、年齢や属性関係なく学び合う場所にしていきたいことを考えています。そのきっかけづくりとして水槽と釣り道具置き場、そして外の流し台を設置しました(右イメージ図参照)。漁でとってきた特殊な魚を水槽に入れてもらったり、一緒に魚釣りをしたり、外の流しでお話しながら魚を捌いたり、島の皆さんが得意なことを活かした日常の学びの場になっています。そして、島の皆さんはもちろんのこと島外からの学生さん、観光客の方もフラッと訪れる場となっています。誰かの特定の人のためではなくみんなの場所であり、島全体で子どもたちを見守る習慣があるからこそ成り立つ場所を目指しています。

地域おこし協力隊 正林の活動について発信しています! →
ご連絡は shorin.umichi@gmail.com まで



2階で勉強する子どもたち



漁師さんが取ってきたタコやサメを触る



みんなで外の流しで魚を捌く



観光客が休憩しに立ち寄り地元の人とお話し



1階



2階

* 寝屋島の島留学: 島全体で子どもたちを見守る寝屋子制度を活かした、島外の子を一年単位で受け入れる取り組み

②建築更新に島のみなさんに参加していただく

島にはたくさんの井戸があり、それらは皆で掘ったりお金を出し合ったりすることで共有物として使われます。それと同様に「ねやこや」が島のみなさんに親しみを持ってもらえるように、建築の改修に参加していただいています。毎日いろんな方が手伝いに来ていただき、1人ではできない作業を一緒に行っています。そして、すぐに完成させるのではなく、島のみなさんを巻き込み、時間をかけて建築を更新ことで生まれるデザインを模索しています。



子どもたちと一緒に居場所をつくる

③地域おこし協力隊自身が楽しむ“まちあそび”

私の活動はわかりやすく説明すると建築を介したまちづくりとなります。しかし、まちの将来像をつくるために行う“まちづくり”というよりも、協力隊の自分自身が無理なく楽しむことを第一にした“まちあそび”と言えるのではないかと思います。時に小学生に混じって遊んだり、地元の人たちにコーヒーを屋台で振る舞いながらお話をしたり、その時にやりたいこと好きなことを活動に取り入れています。全国には多くの地域おこし協力隊があり、中には独りよがりになってしまい、本来の自分の活動の楽しさを見いだせない方もいらっしゃると思います。その方は自分の得意なことや好きなことを改めて見直して、活動を“まちあそび”として捉える必要があると思います。三重県に多くの“まちあそび”人が増えることに期待しています。



手作りの屋台でコーヒーをもてなす

「ねやこや」について詳しく知りたい方はこちらまで!





2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



11月といえば紅葉や七五三の時期ですが、平安時代においては三歳の男女がそれまで剃っていた髪を伸ばし始める「髪置きの儀」、そして5～7歳になると初めて袴を身に着ける「袴着の儀」という儀式があったそうです。鎌倉時代には着物を着るときに紐ではなく帯を結ぶことをお祝する「帯解の儀」が執り行われていたことを経て、江戸時代になると、「髪置きの儀式」が男女における三歳のお祝いとなり、「袴着の儀」が男の子は五歳、女の子は七歳に行われるようになったそうです。昔は幼い子の死亡率が高く、「七歳までは神の子」といわれていたとのこと。七五三は、子供が無事に育っていることへの感謝とこれからの成長を願う行事ですが、少子化の昨今、単なる風習、慣習と捉えるのではなく先人たちの思いを再認識していきたいものです。

さて今回は、人間でいうと傘寿(80歳)となる鈴鹿市から持続可能な社会を目指した取組の紹介をいただきます。

●カーボンニュートラル社会の実現に向けた鈴鹿市の取組を紹介します

鈴鹿市は、電力の地産地消を推進し、二酸化炭素排出量の削減を進め、脱炭素社会を目指すため、東邦ガス株式会社、アーバンエナジー株式会社及び株式会社三十三銀行との共同出資により、令和4年9月28日に、地域新電力会社「鈴鹿グリーンエナジー株式会社」を設立しました。

地域新電力会社では、市清掃センターのバイオマス発電や市内民間事業者による太陽光発電所などから電力を調達し、令和5年4月から、47箇所の市の一部の公共施設に供給する計画です。この取組により、令和2年度には約9,000トンあった二酸化炭素の排出量がゼロになる試算をしています。

また、地域新電力会社の設立にあわせて、「2050年カーボンニュートラル」を目指し、「ゼロカーボンシティ」を表明するとともに、三重県下初の自治体として「世界首長誓約/日本」に署名しました。

世界首長誓約は、持続可能なエネルギーの推進、国の目標を上回る温室効果ガスの削減及び気候変動の影響への適応に取り組むことにより、持続可能でレジリエント(強靱)な地域づくりを目指し、同時に、パリ協定の目標の達成に地域から貢献しようとする自治体の首長が、その旨を誓約するものです。

これらは、カーボンニュートラルの実現に向けた大きな第一歩となり、緑豊かな自然を次世代の子どもたちに引き継いでいくため、積極的に取り組んでいきます。



鈴鹿市長 末松 則子



地域新電力会社を設立



ゼロカーボンシティ表明



世界首長誓約へ署名

●持続可能なまちづくりを進めています～鈴鹿市制施行80周年記念事業～

鈴鹿市は、昭和17(1942)年12月1日に鈴鹿郡と河芸郡の2つの町と12の村が合併して誕生しました。

令和4年12月1日で、市制施行80周年を迎えることを記念し、「継承×挑戦」の80年未来に向かって輝け鈴鹿!をテーマに掲げ、令和4年4月16日に、鈴鹿フラワーパークで開催したキックオフイベントを皮切りに、1年を通じた記念事業を行っています。

市内の小・中学校では、「みんなで創ろう!レガシー事業」と題して、SDGsに関するテーマを中心とした取組を行っています。



©手塚プロダクション



◀ キックオフイベントでは、野町保育園の園児の皆さんにお手伝いをいただき、記念フォトオブジェの完成セレモニーを行いました。



◀ 「みんなで創ろう!レガシー事業」の一環として、庄内小学校では、花壇を花いっぱいにして再生し、地域の皆さんに楽しんでもらえるようにしています。

●生徒主体の新しい教育環境づくりのためICT教育を推進しています

「GIGA スクール構想」は、児童生徒向けの1人1台パソコンと、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現を目的としてスタートしました。

鈴鹿市においても教育ICT環境の整備を進め、令和2年度には、本市の市立小・中学校の全ての教職員に、令和3年度には、全児童生徒に1人1台のパソコンを配付しました。

この事業を通じて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業時や学級閉鎖時においても、オンライン授業を実施することができました。

また、長期欠席している児童生徒や不登校傾向の児童生徒に対してもオンライン授業を行うことができています。



また、文部科学省の「学習者用デジタル教科書実証事業」により、市内全ての小・中学校へ学習者用デジタル教科書(英語+1教科)が提供されました。英語については、パソコンで英語の発音を確認できるほか、自分が聴きたいところを、自分のペースで何度も聴くことができ、発音のスピードを変えることもできます。

児童生徒の「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実と「鈴鹿市の子どもたち誰一人、取り残さない教育」を実現するため、今後も、1人1台パソコンを含めたICT機器をツールとして、より効果的な授業に取り組んでまいります。



●地域のコミュニティの場になるよう子ども食堂を応援しています

子ども食堂とは、地域の子どもたちや保護者などを対象に、低価格もしくは無料で食事の提供をする交流の場であり、鈴鹿市ではNPO法人主催により平成28年度以降7つの団体が開設しています。

生活に困っているひとり親世帯などを中心に、食料や日用品などを無料で配付する「フードパントリー」の活動は、子どもや保護者から困り事を聞き取りするなど、関係機関につなげる「地域のセーフティネット」としての役割も果たしています。

令和4年4月には、子ども食堂の取組を「地域の方に認識してほしい、地域ぐるみで鈴鹿の子どもたちを見守ってほしい」という願いから、鈴鹿市、子ども食堂を行う団体、鈴鹿市社会福祉協議会が主となり、「すずっこ食堂ネットワーク」を立ち上げました。

ここでは各実施団体の有効事例や懸念事項、補助金や寄付などについて情報共有を行い、イベント開催、地域企業へのPR、開設講座などを通じて、子ども食堂の普及・認知・支援を行っています。



子ども食堂が「地域のコミュニティ」になるには、多くの地域に子ども食堂があることが理想ですが、まだまだ存在を知らない方も多く、「子ども食堂＝貧困家庭が利用するところ」という概念を払拭できていない現状もあります。

今後も、現在運営している子ども食堂が継続して活動できるように連携していくとともに、新たな開設につながるよう、市や実施団体、鈴鹿市社会福祉協議会、地域、企業などが協力し合いながら、地域一体となって子ども食堂の活動を広げていきます。



●地域の見守りネットワーク体制を構築しています

超高齢社会の中、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加し、日常生活で生命の危険が伴う事態が起きても、すぐに気づくことができず、対応が遅れる場合があります。また、高齢者だけでなく、障がい者や子どもたちなどに対する地域ぐるみの温かい見守りが欠かせない社会環境となっています。

鈴鹿市では、安心して暮らせる地域づくりを推進するため、市内を巡回している民間事業者と「地域における見守り活動等協力に関する協定(通称:SUZUKAまるごとアイネット)」を締結し、地域の見守りネットワーク体制を構築しています。

現在34の民間事業者と協定を締結しており、高齢者や障がい者、子ども等の異変の早期発見、早期対応につなげているほか、道路の破損や廃棄物の不法投棄等の報告についてもご協力いただいています。

昨年からは、地域支援の輪を広げるため、情報共有と連携を図る場として「SUZUKAまるごとアイネット」の情報交換会を開催しています。今後も、関係者が顔の見える関係を築き、地域の見守りの機運が高まるよう連携強化を図ってまいります。



令和3年11月18日
協定締結式
左から、中北薬品(株)、(株)Cien、
鈴鹿市長、(株)ショクブン





2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



めっきり寒さが厳しくなってきました。沈静化し始めたと思ったコロナ感染の陽性者も増加しているようです。あっという間の1年でしたが、これまで以上に嬉しいニュースや悲しいニュースが錯綜していた年であったように思います。新しい年のテーマは「健康」でありたいと考えます。健康な社会の中で組織や企業が健康であり、もちろん私たちみんなが健康で暮らせることが何よりの願いです。

今回は健康都市・亀山市から寄稿いただきました。



亀山市長 櫻井 義之

健康都市連合

亀山市は、WHO が提唱している「健康都市」を推進する「健康都市連合」および「健康都市連合日本支部」に加盟し、健康都市という考え方を取り入れて、市民の健康に関する課題への取り組みを強化し、市民と行政が一緒になった健康なまちづくりを推進しています。

WHO(世界保健機関)は、健康を個人の責任としてのみとらえるのではなく、都市そのものを健康にすることを提唱しています。その考え方にに基づき、それぞれの都市の実情や抱えている課題を踏まえた健康都市の将来構想を持ち、それに向かって努力している都市を「健康都市」としています。

同連合は、人も都市も健康になることを目標に活動している国際的なネットワークです。本市の加盟は平成22年7月13日、国内では14番目、県内の自治体では初めてとなります。

同連合は、「健康」を、保健、福祉、医療など、人の健康に直接かかわる分野だけに限定せず、都市環境、自然環境、文化など、人の健康に影響を及ぼすあらゆる要因を改善していくための取り組みを進めており、令和3年6月現在で11カ国から195都市48団体の自治体や研究機関などが加盟しており、日本からは35都市6団体が加盟しています。

本市は同連合への加盟と併せ、「健康都市連合日本支部」にも加盟(平成22年6月22日)しました。同支部は、平成17年に健康都市連合に加盟していた沖縄県平良市、千葉県市川市、愛知県尾張旭市、静岡県袋井市が発起人として設立し、令和4年4月現在、本市を含め日本国内の38都市3団体が構成されています。同支部は、国内に健康都市の取り組みを広め、各都市の地域特性に応じたWHO健康都市の実現に寄与することを主な目的としています。



亀山市健康ポータルサイト『かめやま健康なび』

令和4年12月1日から、市民の皆さんが健康に関する情報を得やすくするため、健康づくりに関する情報を一元化したwebサイト『かめやま健康なび』を公開しています。本サイトでは、各種検診の情報や生活習慣病予防食レシピ、運動教室など、市民の皆さんの健康づくりをサポートする情報を「健康」「食」「運動」「健康都市」の4つのカテゴリーに分類し、掲載をしています。

また、同時にコミュニケーションアプリLINEを活用し、公式アカウント『かめやま健康なび』も開設しました。

- 健康ポータルサイト『かめやま健康なび』<https://www.city.kameyama.mie.jp/kenkonavi/>
- LINE公式アカウント『かめやま健康なび』LINE ID:@371uvqnt

かめやま健康なび
LINE公式アカウント
友だち募集中



生まれ変わる亀山駅前「キットテラス亀山」完成

令和4年10月21日、亀山駅周辺2ブロック地区第一種市街地再開発事業が完成を迎えました。検討段階から10年余の年月を経て、多くの市民の皆様の思いが募った新しい駅前地区が生まれました。

本地区の再生は、昭和・平成の時代からの長年の悲願であり、本市の都市形成において大きな転換点となるものです。

この度完成した「キットテラス亀山」には、市の新図書館が令和5年1月26日に開館します。

あらゆる世代の人にとって使いやすい多機能図書館として、また、新たなにわいの核となる施設の誕生にご期待ください。



本市が目指す将来都市像「歴史・ひと・自然が心地よい緑の健都 かめやま」に向け、亀山駅前が新たなにわいの生み出すことでまちの活力を向上させ、今後待ち受ける激動の時代を柔軟に、しなやかに乗り越えていけるよう今後とも皆様とともに歩んでいきます。



亀山版ネウボラ「TEAM SUKU-SUKU」

妊娠期から子育て期まで切れ目のない包括的な子ども・子育て支援のため、「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」を核としてこれまで展開してきた支援体制について、「TEAM SUKU-SUKU(チーム・すくすく)」と名付けました。

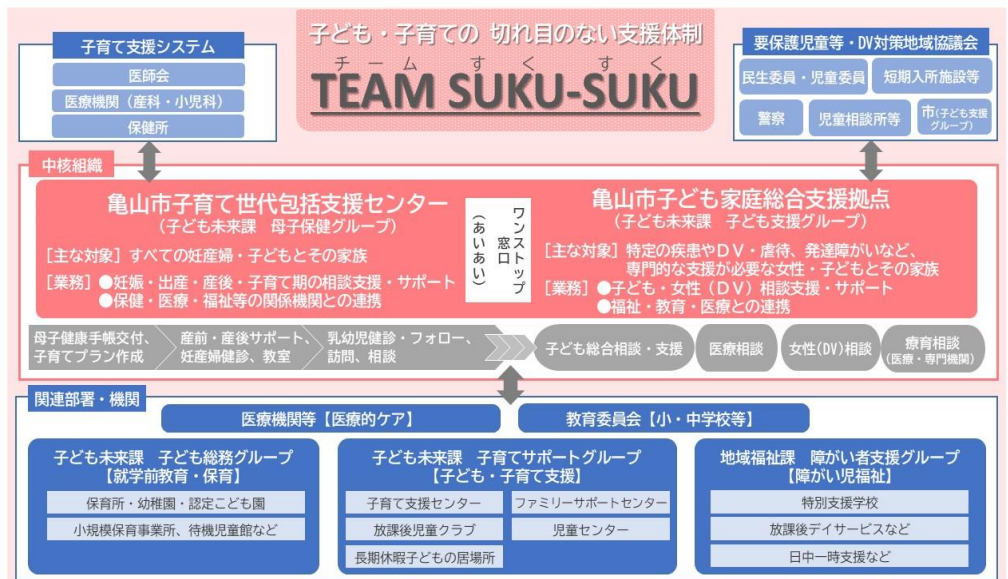
この体制は、本年4月の機構改革に伴い、これまで所管課が異なっていた子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点が子ども未来課の所管となったことを機に各拠点の連携を強化するとともに、関連部署等を一つのチームとして身近に感じただくことで、安心して子育てしていただけるように構築したものです。

妊娠期・出産前後に関わる産婦人科や助産所をはじめ、子育て期に関わる小児科や保育所・幼稚園・認定こども園、小・中学校、放課後児童クラブ、また民生委員・児童委員など幅広い機関等から構成されています。

大きな特徴は、全ての妊産婦・子どもとその家族を対象とする「ポピュレーション・アプローチ」による育児相談や乳幼児健診等を行い、その中でリスクや課題が発見された方々に対して個別支援を行う「ハイリスク・アプローチ」に迅速かつ効果的につなげる点です。

相互の「顔が見える関係づくり」を大切にした医療・保健・福祉・教育のネットワークを生かし、切れ目のない支援をチーム一丸となって行います。

今後も、県内を先導してきた「子育てにやさしいまち」として、安心して妊娠、出産、子育てができる環境を整えていきます。



コミュニティソーシャルワーカー(CSW)による支え合いのしくみづくり～ひとりぼっちをなくすために～

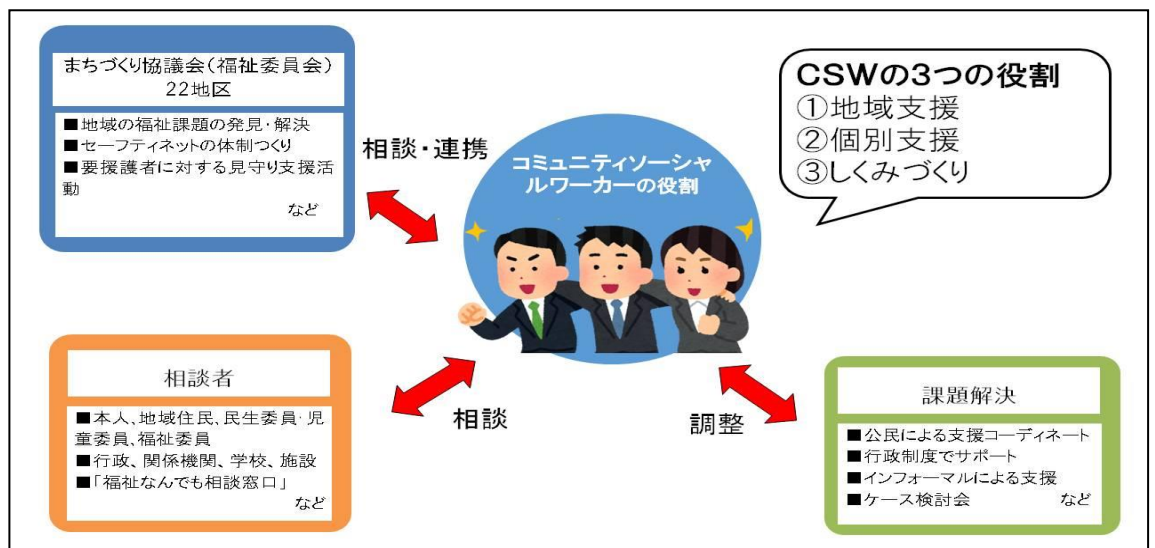
平成30年4月よりCSWを設置し、地域で助け合う福祉のしくみづくりを展開しています。

これは、地域まちづくり協議会を単位として、住民自らが主体的に地域の福祉課題を把握し、助け合い・支え合いにより解決を試みることができるよう、ちょっとした困りごとに対応する「ちょこボラ」を育成しながら行うものです。

これらのしくみづくりに向け、亀山市社会福祉協議会に設置されたCSWは、地域の支援のほか、個別ケースの支援を進め、これまで市民等から多くの相談を受けており、中には全国的に問題視されているゴミ屋敷等の多様化・複合化した課題や「制度の狭間」の問題解決に向けた支援も行っています。

一方で、社会福祉協議会と協働し、地域まちづくり協議会の福祉委員会(全22地区)や民生委員児童委員協議会(全4地区)を訪問し、コミュニティソーシャルワークの概要やCSWの役割の説明を通じて取り組みの浸透を図っています。

今後も社会福祉協議会と連携し、CSWを中心とした地域支援、個別支援、を展開しながら、地域における助け合い・支え合いのしくみを構築し、「ふくし」のまち亀山の実現に向け取り組んでいきます。



第17回マニフェスト大賞 ローカル・マニフェスト大賞<首長の部>最優秀賞を受賞

令和4年11月11日に開催されました、第17回マニフェスト大賞授賞式において、櫻井義之市長の「マニフェスト四段活用 持続可能なまちづくり～中長期的なPDCAサイクルの深化へ～」が最優秀賞を受賞いたしました。

この賞は、地方自治体の議会、首長、市民等による地域の民主主義的向上に資する優れた取り組みを表彰するもので、七部門に全国から三千百三十三件の応募があり、全国五市町の首長を「首長の部」の優秀賞に選び、その中の最優秀賞に選ばれました。

政策の達成状況と評価を「マニフェストレポート」として取りまとめ、ホームページで公表するとともに、事業の優先順位の見直しや組織づくりに反映させるなど、マニフェストサイクルを回していることが評価されました。



マニフェスト大賞 HP:

<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/>

市長マニフェスト HP:

<https://www.city.kameyama.mie.jp/mayor/2014112311532/manifest.html>

事務局からのお知らせ

令和5年2月11日(土)に皆さんの課題を解決する方法をみんなで考えるワールドカフェを開催する計画です。改めてご案内しますので是非ご予約ください。

みなさま
良いお年を
お迎えください



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



ご挨拶

昨年は会員ならびに関係者のみなさまには活動へのご理解をいただき衷心より御礼申し上げます。さて新年のスタートは、「健康」をテーマに、これまで小職がご縁をいただいたみなさんにご投稿いただきました。身体の健康はもちろんですが、人々が健康であるためには、社会が健康で自分達が過ごす組織や地域そのものが健康でなければならないと思います。今年も相互扶助の実践です。 **地域連携ネットワークみえ代表理事 川井勝**



三重の健康維持増進



三重県副知事
服部 浩 様

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルスによる行動制限のない年末年始となり、皆様良いお年を迎えられたことと思います。今年卯年ということもあって思いっきり跳ね回りたいと思いますが、60歳を過ぎるとなかなか身体が言うことを聞きません。同じ年代の人と話をすると、ついつい血圧はとか、痛いところはとか健康を気にする会話になってしまいます。

さて、女性81.2歳、男性78.8歳、この数字が何かおわかりでしょうか。

皆さんご存知かと思いますが、日常的に介護を必要とせず、自立して心身ともに健康的な日常生活をおくることのできる「健康寿命(三重県算出、令和2年)」です。

なんとかこの年齢を超えて生き生きとした生活を送りたいものです。

自分自身を振り返ってみますと、デスクワークが多く、出張の多くは車で移動するなど運動不足を感じており、健康診断や人間ドックでは実際に指摘をされています。これではいけないと、週に2~3日(実際には中断期間もかなりありますが...)夜1時間程度歩くことを続けています。また、1年ほど前からは月に2回程度ゴルフクラブを振り回しに行っています。ゴルフの方は、上達したいという強い思いはあるものの、練習不足のせいでスコアの面では成長が遅く、まあ1日運動するだけで目的は達したと自分自身を納得させています。今年これに加えて、体重を落としながら筋肉量を増やそうとジム通いを始めようと思いきや、年末年始チラシを眺めながらどこにしようか考えているところで、是非とも「断行」したいと思っています。

取り留めのないことを申し上げてきましたが、本年はコロナ対策、人口減少、防災、子ども・教育、医療・介護、産業、観光、など様々な課題に果敢に取り組んでいかなければなりませんので、引き続きのご支援・ご協力、よろしくお願い致します。

皆様もご自身の体調にあわせて無理をせず健康の維持増進に努め、コロナに打ち勝ち明るい1年にしていきたいと思います。

今後のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

健康社会の地域づくり！



四日市大学
学長 岩崎恭典様

コロナ禍に見舞われて3年が経過した。この間、地域の健康状態は大きく損なわれた。少子・高齢化が進む地域がコロナ禍の前に健康・健全であったかといえば疑問ではあるが、少なくとも、地域を網羅する血管とでもいうべき対面コミュニケーションは、なんとか機能していた。それが、コロナ禍によって一気に断ち切られたのである。それまで地域を支えてきたお年寄りやコミュニケーション手段を喪失した。それとともに、地域の「安全・安心」を維持するために必要な自治会活動、そして、面識社会を形成するために必要な「祭り」も中断を余儀なくされたのである。しかし、このところ、対面コミュニケーションが恐る恐る復活し始めた。そして、「祭り」も復活し始めた。とはいえ、3年間の空白は大きく、地域活動や祭りのノウハウは、伝えるべき人材がこの間に少なからず失われたこともあって、必ずしもうまく伝承されているとは言えない。

それだけに、この際、今後も進む少子・高齢化のなかで、これまでやってきた地域の活動を見直し、何を残し、何をやめるか、そして、残したものを維持するためには何が必要か、その維持のための工程を細分化して広く地域活動を担う人員を求めるといった活動を始めることが求められる。地域に血が通い始めた時、必要なところに必要な血が通う仕組みづくりこそが求められるのである。

企業健康経営！



(株)光機械製作所
代表取締役社長
西岡慶子様

昨今、「健康経営」や「人的資本経営」に注目が集まっています。その背景には、グローバル競争の激化による日本企業のプレゼンスの低下、コロナ禍による働き方を含めた価値観の変容などがあげられます。言うまでもなく、企業の持続可能な成長の源泉はイノベーションの創出であり、それを可能にするのはダイバーシティとインクルージョンを備えた場で活躍する人材です。

しかし、日本企業では労働人口の減少による深刻な人材不足、長時間労働による疲労の蓄積やメンタルへの悪影響、また、親の介護による離職、さらにはハラスメントなど、企業の活力を奪う課題が山積しています。

弊社では、「健康5S」活動をはじめ、瞑想セミナーの実施、社員の健康診断受診率100%の維持、健康ライブラリーの整備などを通じて「健康経営」に取り組んできましたが、企業健康とは単に従業員の心身の健康状態を指すのではなく、従業員がそれぞれの能力を十二分に発揮し新しい価値を持続的に生み出す活力と様々な変化に対してレジリエンスを有している状態を意味すると理解しています。

健康な組織づくりには、従業員の「熱意」や「やる気」が不可欠ですが、日本企業のエンゲージメント評価は国際的に決して高くありません。1300万人のビジネスパーソンを対象に行った米国ギャラップ社の「エンゲージメント・サーベイ」によると、日本企業では「熱意あふれる社員」の割合は6%(米国は32%)と低く、さらに、「周囲に不満をまき散らしている無気力な社員」の割合は24%、「やる気のない社員」は70%で、調査139カ国中132位という残念な結果を示しています。

(二面に続く)

従業員のエンゲージメントは社内でのコミュニケーションの量と質に大きく影響を受けます。欧米のマネージャーは仕事の20%を部下とのコミュニケーションに費やすとの報告がある一方で、ミレニウム～Z世代の社員との接し方に悩む日本の上司が部下の話に耳を傾ける時間は遥かに少ないように感じます。長い耳が象徴する「卯」年のスタートにあたり、上司は一人ひとりの部下とのコミュニケーションに深くコミットし、企業の本質的な健康増進に向け意識を新たにしたいものです。



わたしたちの健康は食から！ ～ 東洋医学で食を考える ～



鈴鹿医療科学大学
副学長 高木久代様

遥か2000年以上前から伝えられ東洋医学のバイブルと言われる古典「黄帝内経(こうていだいけい)」には、「命は食にあり、食誤れば病たり、食正しければ病自ずと癒える」とあります。英語の諺には、“You are what you eat” (ひとは食べ物そのものである)があり、「食べ物と健康の関係」は、古今東西で同じです。また東洋医学には「心身一如(しんしんいちによ)」という言葉あり「心と体は結びついており、心の不調は身体に、身体の不調は心に影響を及ぼす」を意味します。まず「健全な食」が健康な心と体を作ることになります。昨今、食に関心を持つ人が多いためか「薬膳」に関心が持たれています。薬膳は昔から中国で行われている「食養生」のことです。薬膳の基本的な考えをご紹介します。

三因制宜(さんいんせんぎ): 因時制宜(いんじせんぎ): 時に合った食材を使う(旬の食材を使用する)、因地制宜(いんちせんぎ): その土地に合ったものを使用する(地産地消)、因人制宜(いんじんせんぎ): 食する人に合ったものを食べる。この3つの教えは今も通じます。

旬の食材を選ぶ理由(因時制宜)は、「旬の食材は旬の時に栄養価が高く、人がその時期に必要な栄養を含んでいます。冬には体を中から温める根野菜の大根、白菜。夏には体を冷やしてくれるゴーヤ、胡瓜、トマト等があります」、食材が地産のもの(因地制宜)がいい理由は「人間の体とその人が住む土地は切り離すことが出来ない、「身土不二(しんどふじ)」という言葉があります。「人の体はその人が暮らしている地域で取れた食材を旬の時に取り入れることでその時期に必要な栄養素を取得できます」、体質、年齢、性別、体調に合ったものを食べる(因人制宜)の理由は「体調が悪い時に薬を飲むのではなく、体調、体質に合わせ胃に優しい食事をして体力を回復させることです」。

上記の3つの薬膳の考えに加え「和食」「味付け」が重要になります。「和食」の「一汁三菜」は栄養バランスを考えた膳になります。薬膳の基礎となる理論が遣唐使により日本に伝えられたため和食に薬膳の考えが含まれています。天婦羅に大根おろし(大根で消化を良くする)、お刺身にシソ、ワサビ(解毒作用があり、体を温める)、おそばに薬味のネギ、七味唐辛子(体を冷やすおそばに体を温めもの)と、「薬味」の中に「薬膳」の考えが含まれています。

「味付け」として和食は鰹、昆布、シイタケを使ったダシで料理します。和食のダシにはうまみ成分が含まれ、ダシで調理した料理は食材の素材を生かした味であるため、食べ物の味を十分感じられるようになります。濃い味の食事ばかりでは美味しさを理解できない大人になってしまいます。但し和食は洋食に比べると、塩分が多くなりますので、減塩に気をつけてください。皆様のご自分のあったお食事で「いつまでも美味しく食べられる未病を癒す旅」を続けられることを願っております。

“食”のフィールドでのスーパーマーケットの役割



榊ぎゅーとら
代表取締役社長清水秀隆様

電気代高騰、値上げラッシュなど、未曾有の外的要因がひしめく中、経済環境はとても厳しい状況です。しかし決して後ろ向きな商売はしないと誓いつつ2023年が始まりました。さて現在は、色々な特徴のスーパーマーケットが存在します。どこよりも安さを打ち出す店、どこよりも高級品を扱う店。それぞれに信念がありどれも否定するものではありません。更には、我々から見れば異業種の方々の新規出店と、同時に彼らの食への参入は激しさを増すばかりです。そんな中、私どもの存在意義、役割は何？を自問自答した際、答えは、まずは美味しいこと、そしてお店が楽しいことと考えています。

前者の美味しいことの定義として、グルタミン酸、イノシン酸など、成分効能として美味しいことに加え、新鮮、出来立てなど、更には、懐かしい味、食べ親しんだ味なども含まれます。それらを店の売場でどのように具現化するかが一つの役割と考えます。もう一つの楽しいお店に到達するための手順として、まずは食事が楽しい、料理が楽しい、お買い物が楽しい、故にお店が楽しいという流れを作ることと考えます。

そして楽しいお店作りは、実は我々自身が楽しんで仕事をしないと達成しないということがやっと分かりました。従業員さんが楽しく仕事をいただくこと、それこそが最重要課題と位置づけています。

更に我々の役割として、お客様との最終接点であることで、生産者様やメーカー様、作り手の方々の理念や思いを、正しくお伝えすることだと思えます。一例を挙げさせていただきますと、三重県の野菜摂取量は、全国でも下位のほうにいます。

せっかく心を込めて作っていただく野菜を、きちんと食べていただけてない責任の一端は私どもにもあると反省しています。単に「買ってください」を連呼するだけではなく、食を文化として啓蒙させていただく。それは小難しい理屈を言うのではなく、分かりやすくキャッチーにお伝えすることが重要と考えます。例えば、メーカー様とタイアップして、店内で音楽や動画を流したり、様々な工夫もさせていただいています。いずれにしても、流通業という言葉通り、生産者様から始まり、我々小売りがお客様に正しく商品を繋ぎさせていただく役割を再認識したいと思います。



事務局からのお知らせ

2月11日にワールドカフェ開催のお知らせをしてきました。そこで「ワールドカフェ」って何？ というお声が多くありました。ワールドカフェとは、本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中でテーマに集中した対話の中でいろんな知恵が生まれるとするアメリカで生まれた話し合いの手法です。是非みなさん、ご参加ください。ホームページからお申込みいただけます。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963

(株)エホ・リュウシオン内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



日本では昔から「1月往ぬる二月逃げる三月去る」などと言われ、正月から3月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことから調子よく言ったものです。とりわけ2月は日数も少なく逃げるように過ぎていきます。

しかし齢を重ねると、この時期だけでなく1年があっという間に過ぎていくものです。フランスの哲学者ポール・ジャネは、人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例するとする法則を唱えました。

高齢になるほど自分の人生における1年の比率が小さくなって感じるということでしょう。人生100年時代に入ってますます体感時間が短くなっていくのでしょうか。

人の寿命が100歳という一方、満150歳になったのが日本の鉄道です。1872年(明治5年)に新橋から横浜までの間、日本で初めての鉄道が開業しました。そして1914年(大正3年)に東京駅が開業されています。

その東京駅よりも早く造られた駅舎が、玉城町にあるJR田丸駅の駅舎です。1912年(大正元年)に誕生しましたが、その110年の生涯を今年閉じようとしています。



「田舎のねずみと都会のねずみ」という童話がありますが、今回は田舎の駅と都会の駅のお話です！



日本の駅の約半分は無人駅になっています。その数は北海道がダントツですが、何と三重県は全国第5位の無人駅数となっています。JR田丸駅もその一つです。

その駅舎も耐震診断で倒壊する可能性が高くなって、この春に解体されることが決まっています。

2年前、近隣の無人駅の様子を見て、またはこの田丸駅舎の将来を考えて、住民のみなさんたちから声が上がリ、「田丸駅でつながるまちづくり協議会」が発足されました。

そこに集うみなさんは、「伝統ある駅舎に思い入れのある方」、「熱心な鉄道ファンの方」、「駅本来の機能を維持させようという方」、「駅を起点に暮らしを考えようとする方」など様々です。

このまちづくり協議会では、これまで手作りで住民アンケートを実施したり、駅舎に思いを寄せたポスターを作成したり、またJRが主催するウォーキングイベントで活動を訴えたりしてきました。また、住民のみなさんに声をかけての集会活動や、「鉄道とまちづくり」という講座を持ってみえる四日市大学の岩崎学長の講演などを開催して、田丸駅への思いを集約し役場に届けてきました。



こうした住民活動を背景に町役場は根気よくJR側と交渉をされ、結果として老朽化した駅舎を解体した跡地に町施設としての駅舎機能を維持した町民交流施設を建設する方向となりました。

その建設に向けては、町として交流施設の設計に住民の意見を取り入れていくべく三重大学で建築学の教鞭をとられている近藤早映先生をファシリテーターとして迎えワークショップを開催されました。

こうしたさまざまな取り組みを経て田丸の駅舎は生まれ変わろうとしています。

もうすぐJR田丸駅舎は無くなりますが、新しいコミュニティ施設は鉄道利用者だけでなく、住民みんなが集うサードプレイスとしてその役割を担っていくことでしょう。

今、「田丸駅でつながるまちづくり協議会」は、『ありがとう田丸駅作品展実行委員会』として田丸駅の姿を心に残そうと写真やイラストの募集を行い3月21日から26日までの間、玉城町内のギャラリー久(きゅう)で展示会を計画しています。

さて一方、都会の駅は今や駅というよりグルメデパートの様相がありますが、その歴史にも深みがあります。

ありがとう田丸駅作品募集！！



たくさんのお思い出くれた田丸駅舎。そんな田丸駅舎の姿を心に残しておきませんか？玉城町の町民のみなさん、そして玉城町とつながりのあるみなさん、あなたのとっておきの写真・イラスト・文章を募集します。未来に残したい風景や懐かしいあの瞬間など大募集！

募集期間 令和5年1月16日(月)～2月20日(月)

応募方法 直接持参、郵送またはインターネットにて応募ください。インターネット応募は、下記のURLから応募フォームにアクセスして必要事項の入力と作品添付をしてください。
<https://logoform.jp/form/FAUJ7/198757> [QRコード]

応募は1人2点までです。詳しくは裏面の応募要項をご覧ください。

ご応募いただいた作品は展示を行います。裏面をご覧ください。展示の詳細は後日お知らせいたします。思い出を次世代に伝えましょう！

お問い合わせ先：ありがとう田丸駅作品展実行委員会 (田丸駅でつながるまちづくり協議会)

MAIL: tamarumachikyoo@gmail.com

TEL: 0596-58-2251 (合同会社たまきあい内) この活動は住民主体の自治活動として取り組んでいます。

主催：ありがとう田丸駅作品展実行委員会 後援：玉城町



参宮線開通130周年&田丸駅舎110年をこえる歴史に幕

ありがとう田丸駅作品展



110年をこえる歴史ある田丸駅舎にありがとう...そして、新たな時代へ
思い出はつづくよ いつまでも

たくさんの方々からお寄せいただいた写真や絵など...
もうすぐ解体される駅舎への思いのこもった作品の展示会を開催します。
お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください！

期間 令和5年3月21日(火)～3月26日(日)

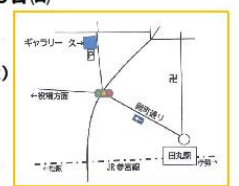
9:30～16:30(最終日は15:00まで)

場所 ギャラリー 久(きゅう) (玉城町田丸122)

入場無料・駐車場あり

(おねがい) 時差、感染症対策にご協力ください。

主催：ありがとう田丸駅作品展実行委員会 後援：玉城町



田丸駅やその周辺、参宮線にまつわる品(古い写真、看板、切符、本など)も展示します。
なつかしい品をお持ちの方はぜひ下記までお知らせください。



〈連絡先〉
ありがとう田丸駅作品展実行委員会事務局
田丸駅でつながるまちづくり協議会(たまきあい内)
TEL:0596-58-2251
メール：tamarumachikyoo@gmail.com

鉄道開業150年 ***

1872年(明治5年)新橋から横浜に日本初の鉄道が開業して、昨年は150年の節目の年でした。東京では近代日本の幕開けともいえる鉄道開業当時を偲び様々な催しが行われました。

新橋駅の近くには、1872年(明治5年)10月14日に開業した日本最初の鉄道ターミナル新橋停車場の駅舎の外観を当時と同じ位置にできるだけ忠実に再現した「旧新橋停車場」があります。

文明開化の象徴として親しまれた旧駅舎は、1923年(大正12年)9月1日の関東大震災での火災のため焼失しましたが、1991年(平成3年)から行われた発掘調査の結果、旧新橋停車場駅舎とプラットホームなど構内の諸施設の礎石が発見され、史跡「旧新橋停車場跡」として国の指定を受け、この史跡を保護しつつ我が国鉄道発祥の往時を偲ぶために駅舎が再建されました。

そこには、鉄道にまつわる様々な展示や、当時を再現したプラットホーム、0哩標識と再現軌道などがあり、今も多くの鉄道ファンが訪れています。



復元されたホームと線路



線路の起点となる0哩標識



停車場の建物



東京駅の開設 ***

さて、鉄道の駅と言えば、やはり東京駅丸の内駅舎がいちばんに思い浮かぶのではないでしょうか。

田丸駅開業の2年後、1914年(大正3年)12月20日に東京駅が新設され、旅客ターミナルの機能が新橋駅から東京駅に移りました。

東京駅舎は、辰野金吾と葛西萬司が設計し、そのデザインは「辰野式ルネッサンス」と呼ばれ皇居に続く皇室用玄関である「天皇の駅」としてのシンボリックな意味を持っていたそうです。

煉瓦と鉄筋造り3階建ての豪壮華麗な洋式建築で、南北にそれぞれドーム状の屋根の乗降口があり、中央の玄関は皇室専用であったそうです。

関東大震災でもほとんど被害はありませんでしたが、1945年(昭和20年)の東京大空襲により被災し、戦後の戦災復興工事による姿のまま60年以上使い続けられました。

2003年(平成15年)に丸の内駅舎は国の重要文化財に指定されました。

ちなみに重要文化財指定の駅建築物は、東京駅と門司港駅のみです。



そして、2007年(平成19年)4月から始まった重要文化財・東京駅丸の内駅舎の保存・復元工事により、2012年(平成24年)10月1日に現在の姿に生まれ変わり、日本の首都東京を象徴する建築として、また日本一多いプラットホーム数を誇る乗降客数日本第6位の駅として、国内外の人々に愛され続けています。



「場所」は活用することで発展する

このように人々に愛され続ける場所がある一方、忘れられる場所もあります。人々に愛される場所には人々の営みがあり、人が関わり続けることで文化が生まれ、時代に合わせながら発展していくのではないのでしょうか。

田丸駅も東京駅もそれぞれの時代の人々が利用し、生活を紡いできたからこそ、今の姿があるのです。田丸駅の駅舎は生まれ変わろうとしています。新たな歴史を紡ぐのは地域の皆さんや駅を訪れる方々の積極的な参加が大切です。

田丸駅ができて1世紀以上が経ちましたが、次の1世紀に向けて地域のコミュニティ施設としてみんなで活用していきましょう。

全ての駅が誰かの最寄り駅・・・どこか懐かしくあたたかい、後世に残したい鉄道のある風景。

日々の暮らしに疲れを感じたとき、心潤すローカル線は速すぎた心の時計を修復し、また少し頑張れる活力を与えてくれる。

～「画文集 日本の鉄道抒情」さきたま出版会からの内容紹介文から引用



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



3月は、春の息吹を感じさせ、ひな祭りを経て何かウキウキ感をかもし出す季節である一方、忘れえぬ3.11東日本大震災で犠牲になった皆さんを追悼する月でもあります。早、干支が一回りした時間の経過があっても教訓は風化させてはなりません。またこの時期は、多くの自治体や企業で人事異動の内示時期でもあり、個人的には一喜一憂のする場面もあるかもしれませんね。

さて、来月は三重県議会議員選挙が予定されていますが、日本で初めて普通選挙が行われたのは1928年だそうです。

当時、2大政党の一つであった立憲政友会の選挙ポスターでの標語が興味深いです。

地方に財源を与ふれば、完全な発達は自然に来る
地方分権 丈夫なものよ ひとりあるきで 発てんす
中央集権は 不自由なものよ 足をやせさし 杖もらう

日本の民主主義、普通選挙を生み出した大正デモクラシーは1918年の米騒動に発しますが、それは地方分権の歴史でもあります。

交付税などの財政調整制度は、地方財政の中央への依存として語られることが多いですが、中央と地方の役割をしっかりと議論をすることが私たちにも必要です。

今回は、基礎自治体の連携を進め、地方自治の振興発展のための活動をされている三重県町村会からの寄稿いただきました。

なんとこの組織が全国に展開されることとなったのは、三重の地からでした。



三重県町村会のあゆみと事業紹介



【町村会のあゆみ】

第1次世界大戦が終わり、国民生活は破綻し、各地で米騒動まで起きた混迷の時代において、脆弱な町村財政は、当時の小学校教員の俸給負担によって圧迫され、

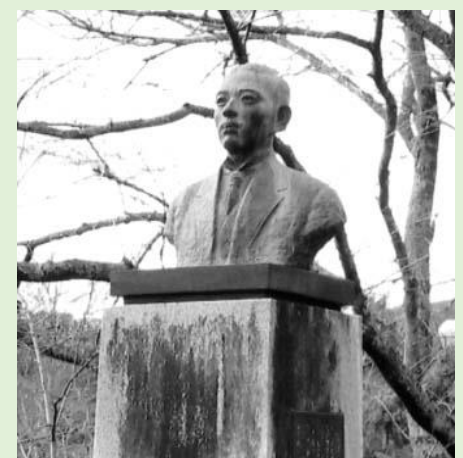
極めて厳しい状況にありました。これに対し、三重県度会郡七保村(現大紀町)の大瀬東作(おおせとうさく)村長が県内の町村長だけでなく全国の町村長に訴えかけ「一致結束して国に働きかけることの重要性」「町村長の全国組織の設立の必要性」を強く先唱しました。これを契機として「義務教育費国庫負担増額運動」の輪が広がり全国的に展開されていく中、大正9年(1920年)10月24日、当時の三重県内377人の全町村長出席のもと、三重県会議事堂において発会式が行われ、前身となる「三重県町村長会」が創立されました。そして、その事務所内(当時:七保村役場)に全国町村長会創立事務所が設置され、翌大正10年(1921年)2月12日に全国町村長会が結成されました。

令和2年(2020年)10月に、三重県町村会創立100年目を迎え、これを記念し、11月16日に「三重県町村会創立100周年記念式典」を開催しましたので、町村会の「沿革」とともに「100周年記念式典宣言」をご紹介します。

*大正9年(1920年)10月24日「三重県町村長会」創立。

*大正10年(1921年)2月12日「全国町村長会」結成。大瀬村長が同会の副会長に就任。

*昭和22年(1947年)8月「全国町村会」に改称。「三重県町村会」に改称



大瀬東作像(野原農村公園内)

宣 言

三重県町村会は、大正9年10月24日に全国的に展開された義務教育費国庫負担増額運動を契機に創立され、以来、県内町村の円滑な運営と町村自治の振興発展に寄与することを目的に、その活動に邁進してきた。

いま100年の節目を迎え、我々は、少子・高齢化による本格的な人口減少社会の中、過疎化や農林水産業の衰退、頻発する大規模災害などの課題に加え、新型コロナウイルス感染症という未曾有の脅威に直面している。

このような中、都市と農山漁村が共生する均衡ある地域の発展をはかるためには、国と地方が一体となり、国土の強靱化並びに東京一極集中の是正を推進し、真の地方創生を実現しなければならない。

われわれ三重県の町長は、未来を見据えた先人の英知と行動に倣い、本会創立の根幹である政務活動等をさらに充実させ、15町一丸となって、コロナ禍後の新しい分散型社会の構築と、魅力あふれる持続可能なまちづくりに取り組んでいくことをここに決意する。

以上、宣言する。

令和2年11月16日

三重県町村会創立100周年記念式典



三重県町村会 会長
紀宝町長 西田 健



三重県町村会副会長
木曾岬町長 加藤 隆



三重県町村会副会長
玉城町長 辻村修一

三重県町村会の紹介

【三重県町村会とは】

三重県内の全町(15 町)をもって組織する団体で、地方公共事務の円滑な運営と地方自治の振興発展を図ることを目的として、地方行政推進上の課題を把握し、その対応策等を審議するため、毎年夏に定期総会を開催しています。

【基本方針】

主体的・自立的な行政運営を行える基礎自治体の形成に向けて、県内全 15 町相互の揺ぎ無い結束と連携のもと、町支援体制の更なる充実を目指しています。特に現下の政策課題に対して、適格かつ迅速に対応し、各町の効率的な行財政運営に寄与するための事業として「町の事務及び町長の権限に属する事務の連絡調整」「地方自治の振興に関する調査研究及び意見具申」「町職員の研修及び福祉厚生に関する事項」「町の事務に必要な広報活動並びに資料の収集及び紹介」など各種事業の拡充を図るとともに、三重県並びに県内各市(14 市)とのパートナーシップの更なる強化を図ります。

【事業紹介】

■政務調査事業

定期総会への提出議題の取りまとめを行うとともに、地方行政推進上の課題及び県政課題等に対する調査研究を行っています。

(1) 政務活動

- ①政務調査委員会(15 町長)…各専門委員会を中心に調査研究を行います。
- ②担当課長会議…定期総会提出議題の精査、選別、地方行政推進上の課題等について、随時、調査研究を行います。

(2) 調査研究

- ①自治研修会 ②トップセミナー(29 市町長等) ③県外視察調査(理事)
- ④農林水産省職員との意見交換会 ⑤副町長会議 ⑥総務課長会議 など

■国、県等への要望活動

定期総会採択事項並びに各種行政課題について、その問題解決に向け、国、県をはじめとする関係機関への要望活動を展開しています。

- (1) 県選出国会議員への要請 (2) 知事との意見交換並びに予算編成時における要請 (3) 県関係部長との意見交換
- (4) 県議会正副議長、常任委員長への要請 (5) 自由民主党県連並びに新政みえへの要請 など

■関係団体との連携

全国町村会、三重県、三重県市長会等、関係団体との連携強化を図り事業を実施しています。特に県政課題等については、三重県市長会と積極的な情報共有を行い、一体感をもち対応しています。

■町村行政の推進に資する事業

県内 15 町の行政運営の推進並びに効率化に資することを目的に、各種支援事業を展開しています。

- (1) 情報公開・個人情報保護審査会 (2) 行政不服審査会 (3) 法制支援事業(条例、規則等に関する起案審査(法制執務照会)・法令等の制定改廃に係る情報提供)
- (4) 三重県市町等職員採用選考試験 (5) 「母子保健のしおり」共同印刷事業(三重県市長会との共同事務)
- (7) ホームページ・メール等による迅速な情報提供 など

≪関係団体関連事業≫

- (1) 市町等職員研修(三重県市町総合事務組合事業)
- (2) 三重県市町公平委員会(三重県市町総合事務組合共同設置事業)
- (3) 情報化推進事業((公財)三重県市町村振興協会事業)
- (4) 法制支援事業((公財)三重県市町村振興協会事業)

■災害共済関係事業

地方自治法第 263 条の2に基づく相互救済を目的とした「公有物件共済事業」、市町等職員の厚生に資することを目的とした「職員共済事業(火災共済・自動車共済・個人年金共済など)」、啓発事業(交通安全研修などの研修事業)を実施しています。



編集後記



SGDsの取り組みは、各自治体でも鋭意取り組まれています。日本はまだまだその達成には道半ばの事項が多いです。そして、いろいろな世界のランクが示される中、常に上位は北欧で占められています。

そこで民主政治先進国と言われるスウェーデンの姿を少しだけご紹介したいと思います。

スウェーデンでは人口は日本の約 1 割ですが、イノベーションに優れ、たくさんのユニコーン企業が生まれており、1人当たりの

GDP では2021年国連統計で日本の約1.5倍とはるかに上回り、豊かな福祉国家であることは皆の知るところです。

しかし国会議員の報酬は北欧中最低で、地方議員に至っては、ほとんどの議員が無報酬だそうです。

国会議員の宿舍も気の毒なほど質素で通勤や移動は公共交通機関を使うのが普通ということです。

また、スウェーデンでは政治家も敬称を廃止し、誰もがシンプルに「あなた」と呼ばれる平等社会を作っています。

高額な税金を払っているスウェーデンの国民はその使い道にも敏感で、政治に関心をもって監視する風土があるようです。

日本でも政治や行政活動には自分事として捉え、関心を持って参画していくことが世界でのランクを上げる鍵かもしれません。



三重県自治会館





2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



4月は、和風月名で卯月(うづき)と言います。ウツギという白い花が咲く季節なので、「卯の花月」ということらしいです。「うのはな」というとおからを思い浮かべてしまいますが、花の名前からきているんですね。卯月の「う」は「初」や「産」を意味する「う」で、一年の循環の最初を意味するという説もあります。いずれにせよ、新しい年度のスタートなんですね。さて、今回は、地元に着して配信をいただいている三重テレビ放送に昨年就任されました山口社長に新たなスタートの決意を語っていただきました。

～三重テレビ放送のこれから～



三重テレビ放送代表取締役社長 山口 貢

昨年の6月に、三重テレビ放送の社長に就任いたしました「山口 貢(やまぐち・みつぐ)」と申します。この度、こうした機会を頂きましたので、変化する三重県唯一の地上波民放テレビ局・三重テレビ放送の紹介をさせていただきます。

まず、ここからは、三重テレビが生き残りをかけて注力していることを、順番に紹介させていただきます。

一番目は「地域密着」ということです。日本中のテレビ局が「地域密着」を標榜するわけですが、特に三重テレビは三重県唯一の地元民放テレビ局として「超ローカル局」を目指しております。

「Mie ライブ」を始めとしたニュース・情報番組で、三重県、各市町そして民間企業とそこに暮らす皆様の物語を取り上げるのはもちろん、昨年の7月から毎週金曜日午後10時10分から25分まで「部活応援！とこわかアスリート」という番組で、三重県内の高校の運動部を紹介しております。そして、今年7月からは、毎週月曜日から金曜日の午前6時25分から6時30分、同じく夕方5時30分から5時35分で、「エムっとくとあそぼう！」という、県内の幼稚園・保育園を三重テレビの局キャラ(エムっとくとびつとちゃん)が巡り、楽しく子供たちと体操する番組をスタートさせます。

1人でも多くの三重県の高中生、子供たちにも出演してもらいたいと考えています。

さらに、三重テレビには、伝説的な視聴者参加のカラオケ番組「カラオケ ON ステージ」

(1982年4月から99年3月まで放送)があったのですが、その伝説のカラオケ番組を今年度中に復活させ、地元県民の皆さんがこぞって参加したくなるような番組に育てたいと思います。



「部活応援！とこわかアスリート」(C)三重テレビ放送

次に、三重県の基幹産業のひとつである「観光産業」を盛り上げるために、3つの新番組をスタートいたしました。

1つ目は、昨年7月スタートの「バスケットブラザーズの行けばわかるさ！～三重街道中ひざくりげ～」という番組です。昨年の「キングオブコント」のチャンピオンとなったお笑いコンビ「バスケットブラザーズ」が桑名市・七里の渡しから伊勢神宮まで歩いて旅をしていきます。その途中で、三重県を紹介していくというもので、毎週月曜日午後8時からの30分番組で、毎週水曜日午前10時から再放送をしています。この番組は、BS よしもとでも、毎週日曜日午後8時30分から9時まで放送されており、全国で視聴することができます。



「バスケットブラザーズの行けばわかるさ！～三重街道中ひざくりげ～」(C)三重テレビ放送

2つ目は、昨年8月から、地元男性アイドルグループ「BOYS AND MEN」が、三重県にテーマパークを作るべく、三重県中を駆け巡る「ボイメン☆パーク」という番組をスタートさせました。この番組は、番組そのものをイベント化させて、三重のさまざまな場所を紹介するとともに、リアルに視聴者の皆さんと触れ合っていこうと考えています。放送は、毎週木曜日午後10時10分から 10 時45分、再放送は毎週月曜日午前10時からです。



「ボイメン☆パーク」(C)三重テレビ放送

3つ目は、今年の4月から、コロナの影響で放送中止になっていました「ええじゃないか」を「新・ええじゃないか～いい旅いい発見～」として復活させました。MC は、三重県観光大使のチャンカワイさんと池山智瑛さんのお二人。この番組は、サンテレビさん、テレビ神奈川さんといった全国の独立局9局で放送され、その視聴可能世帯数は5300万世帯となります。さらに、この「新・ええじゃないか」は、三重県内の素晴らしいスポンサーの皆さんに支えられ、本当に素晴らしいスタートを切らせて頂きました。改めて、お礼申し上げます。

このような三重県の観光産業振興のお役に立てる番組コンテンツを基盤にして、地元三重県の観光パートナーとなれるメディア企業に変化するべく、放送事業を進めて参ります。



「新・ええじゃないか～いい旅 いい発見～」(C)三重テレビ放送

三番目に、地元三重県の皆さんに、コンサートは勿論、エンタメを楽しんで頂く機会を創出していくということです。名古屋・東京・大阪のパートナー企業との協働で、「フジコヘミングのピアノコンサート」「ドラゴンクエストコンサート」「三重テレビ夏休みファミリーイベント・恐竜パーク」「吉本新喜劇」「郷ひろみコンサート」「福田こうへいコンサート」「松山千春コンサート」「コブクロコンサート」等々を共催するとともに、昨年の12月から3ヶ月間に渡って、桑名のイオン駐車場で「パピードリームサーカス」というアクロバティックサーカスの興業を開催いたしました。そして、今年4月14日より、四日市市文化会館で「田中達也のミニチュアライフ展～見立ての世界～」を1ヶ月半に渡り開催しております。あの某国営放送の2017年の朝ドラ「ひよっこ」のオープニング映像でブレイクし、今や台湾をはじめ海外でも人気の展覧会です。三重県初登場の超楽しい展覧会です。一度、足をお運び下さい。

そして、**四番目**に、数年前から力を入れていることに、「配信事業の強化」というものがあります。三重県の代表校を決める「高校野球大会」の配信を筆頭に、「全国高校サッカー選手権三重大会」「企業・行政体・学校等の周年事業、各種セレモニー」といったものの配信事業を受託し、年々その業容を拡大しております。最近のトピックスとしましては、昨年、90年近い歴史のある「桑名水郷花火大会」を配信し、「三重テレビ公式YouTubeチャンネル」におきまして、これまでに14万9000視聴の数字を達成しております。ご興味、ご要望のあるお方がいらっしゃるのであれば、ぜひ、ご一報下さい。問い合わせは、三重テレビ放送技術局 059-223-3359(担当窓口、三好・小林)です。よろしくお願い申し上げます。

さらに、新ジャンルの番組コンテンツとしていくつかご紹介させていただきますと、まず地元出身の前 WBC 世界ライトフライ級チャンピオン・矢吹正道選手の世界タイトルへの再挑戦に寄り添い、復活への2試合(昨年9月10日の四日市、今年1月28日の名古屋)を生放送いたしました。

また、東京ドームで開催された「THE・MATCH(那須川天心 VS 武尊他)」、フロイドメイウェザーVS 朝倉未来の「超-RIZIN 完全版」の地上放送、今年になってからは、昨年の大晦日の大会以降、「RIZIN シリーズ」の各大会を地上波で放送しております。そして、この4月からは「FM 三重」と協働し、「FM 三重」さんの朝の生情報番組「POMie!」を月曜日から金曜日まで、午前7時 30 分からの30分のテレビ番組としてお送りしております。

「見るラジオ、聴くテレビ」ということで、おそらく日本初のコラボ番組に挑戦しております。そしてさらに、地元「観光産業」振興・支援のための新しい事業を、今年5月から6月にはスタートできると思います。発表までもう少しお待ちください。乞う、ご期待です。



「Pick up On Mie~PoMie~」(C)radio³

2019年に、テレビ広告費は、初めてインターネット広告費に1位の座を奪われました。そのわずか3年後の2022年、インターネット広告費はテレビ広告費の1.7倍の規模となり、その差は広がるばかりです。その昔、「進化論」で有名なダーウィンさんは「生き残る種は、変化に適応した種である」といったそうです。まさに、地上波テレビ局は生き残れるかどうかの正念場に居るのだと思います。そして、三重県で唯一の地上波民放テレビ局である三重テレビは、なんとしても、三重県の皆さまのためにも生き残っていかなくてはなりません。皆さんにとって、生活に欠くべからざるものであることはもちろんですが、県内の情報を、県外の東海地方、日本全国、そして全世界へ発信していくことは、三重県の生き残りにも大変重要なファクターだと思います。

これまで三重県及び三重県民は「情報発信が弱い」と言われることがありました。そして、そう言われることの責任の一端は、三重県で唯一の地上波民放テレビ局である三重テレビにもあると思います。でも、まだ間に合います。今や、テクノロジーとコンテンツの力で、その情報発信力は大いに変わっていくはずで

三重テレビでは、昨年「三重テレビアプリ」をリリース致しました。その数年前から「三重テレビ公式YouTubeチャンネル」も立ち上げております。こういった通信系のテクノロジーを使えば、その情報は全国に、そして全世界に繋がっていきます。

もともと、三重県には食べ物も含め、豊かな観光資源があります。特に、お伊勢さんという日本で唯一無二の存在があるのです。そういった三重県を世界に繋げていくために、三重テレビは大いに変化していきたいと思っております。そして、三重県の全ての皆さんの情報発信のお役に立てるメディア企業に変わって参ります。

最後になりますが、三重テレビは来年の1月から開局55周年の記念イヤーに入ります。企業として大いに変化しなくてはならない年に55周年を迎えるということは大チャンスとして、飛躍をしていきたいと思っております。まだまだ変化を始めたばかりですが、その変化を止めることなく続けていくことが、私の使命だと決意しております。皆さんにおかれましても、三重テレビの今とこれからの注目し、期待して下さいということで、私のレポートを終わらせて頂きます。本当にありがとうございました。



トピックス

3月29日、障がい者の支援に取り組む団体のみなさんによる勉強会が伊勢市の「ふたみ農園」さんで開催されました。この春スタートを始める B 型事業者、グループホームを立ち上げていこうとするみなさんの真摯なお取り組みや苦労などについて意見交換が行われました。こうした活動を通じて地域の中の様々な課題の解決につながればと思います。



当日のスタッフのみなさん

4月16日、玉城町の有田小学校校区で「有田地域運営組織委員会」による住民大学「うだむらアカデミー」が開校されました。委員会は、小学校校長、保育所所長、保全会会長、JA 役員、消防団分団長、駐在所員など地域で活躍されているみなさんで構成されています。コロナ禍で希薄化した住民交流を復活させたい、と取り組んだもので今後の活動が期待されます。

お知らせ

来たる**6月10日(土)**に**会員交流会**を予定いたします。これまでの社団の活動紹介とともにぎゅーとら清水社長から地域密着経営のお話をいただきます。その後、会費制にて立食での懇談会を計画しています。詳細は追ってご連絡しますので万障繰り合わせてご参加ください。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



5月の誕生花の一つにハナショウブがあります。そしてハナショウブは、三重の県花として昭和44年9月に指定されています。初夏に紫色や白、薄紅の花を咲かせ、桑名市の九華公園や明和町の斎王の森、伊勢神宮の勾玉池などで見られます。花言葉は「忍耐」とか「熱心」と言われています。

5月8日からコロナ感染症は、5類に引き下げられ、人々の忍耐の日々は緩和されたかのように見えますが、世界の中では自国内の紛争で生きるために必至になっている報道が毎日のようにあり、もう忍耐という言葉では済まされないでしょう。

紛争から逃れ避難しても食料が無い。異常気象、ウクライナ侵攻をはじめ地球規模の大問題が立て続けに起きている今、世界の飢餓人口が急増しており、日本でも食料価格高騰の影響が及んでおり、食料危機は決して遠い国の話ではなくなってきています。

今回は、食の生産を担う農林水産業を支援する「三重県農林水産支援センター」からの投稿をご紹介します。

三重県農林水産支援センター ってご存じですか？

こんなことやってます！【法人の目的】

公益財団法人三重県農林水産支援センターは、県内の農林漁業の担い手の確保・育成を図るとともに、農林漁業経営体の経営の合理化や就業環境の改善並びに経営基盤の強化、併せて農林水産物の流通、加工及び利用の増進、改善を図ることにより、本県の農林水産業及び農山漁村の安定的かつ健全な発展を通じて、県民の皆様の生活の向上に資することを目的としています。

センターには、農林水産業の担い手の確保・育成や「みえの安心食材表示制度」の認定・審査を行う「総務・担い手支援課」、農地中間管理機構として農地の集積・集約を行う「農地中間管理課」、農林水産事業体の経営支援を行う「経営支援PT」を配置し、以下の業務を担っています。

@ 総務・担い手支援課

公益財団の管理・運営

理事会や評議員会の運営事務、公益財団の管理・運営や公益財団全般にかかる業務を行っています。

農林漁業の担い手の確保・育成

農林漁業の将来を考え、それぞれの産業に就きたい方を確保・育成するため、各種事業を実施し、就業・定着に向け支援しています。

- 就業・就職相談の対応(常時)
- 農林漁業就業・就職フェア(相談会・セミナー)の開催
- 厚生労働省許可(24-ム-300001)の無料職業紹介所の開設

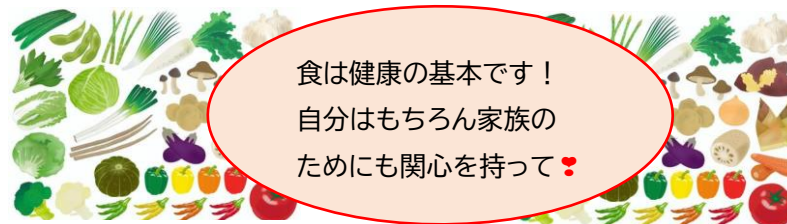


魅力ある一次産業で食だけでなく地域で暮らす環境を守っていく人々を支援！

みえの安心食材表示制度の認定・審査

三重県が実施する「人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度」の認定・審査機関として、現地調査や表示認定を行ない、安心食材を提供する生産者の皆さんを応援しています。

- 農業軽減等の現地調査の実施
- 認定マークの発行(販売)



食は健康の基本です！
自分はもちろん家族のためにも関心を持って！



@ 農地中間管理課

農地の集積・集約化

担い手農家等が生産性の高い農業経営をめざすための、経営規模の拡大や農地の集団化につながる農地集積・集約の取組みを支援しています。

- 農地中間管理機構業務(農地の貸借による中間保有・再配分)の実施
- 農地売買による担い手農家等への農地集積・集約の支援
- 企業の農業参入相談対応

農業を維持していくには他の産業と同じように作業の効率化や合理化が求められます。そこで年々機械化やスマート化が進められていますが、耕作農地が小さいとそれができません。農地の集積や集約は、地域の食と環境を守るために大切な取り組みです。

@ 経営支援プロジェクトチーム

経営発展支援

農林漁業事業体が抱える様々な経営課題に対応した支援を通じて、さらなる経営発展に向けた支援を行っています。

- 農林漁業事業体の経営課題に応じた専門家派遣や研修会の開催



支援センターの新たな取り組み

農園主は経営者であり社長です！

みえ農業経営社長塾サロン講座

2023年10月講座開講予定!

本県においては、新規就農者のうち法人等へ就業する者の割合が高く、農業の重要な担い手となっています。そこで、将来にわたって継続的に多くの雇用を受け入れられる企業的な経営を行うトップクラスの経営者を増やしていくため、それぞれの発展段階に応じて、トップクラスの経営者から直接、経営の哲学や理念を学び、人脈を広げていく場として、「みえ農業経営社長塾」を開催しています。

<2022年度みえ農業経営社長塾 サロン型講座 開催概要>

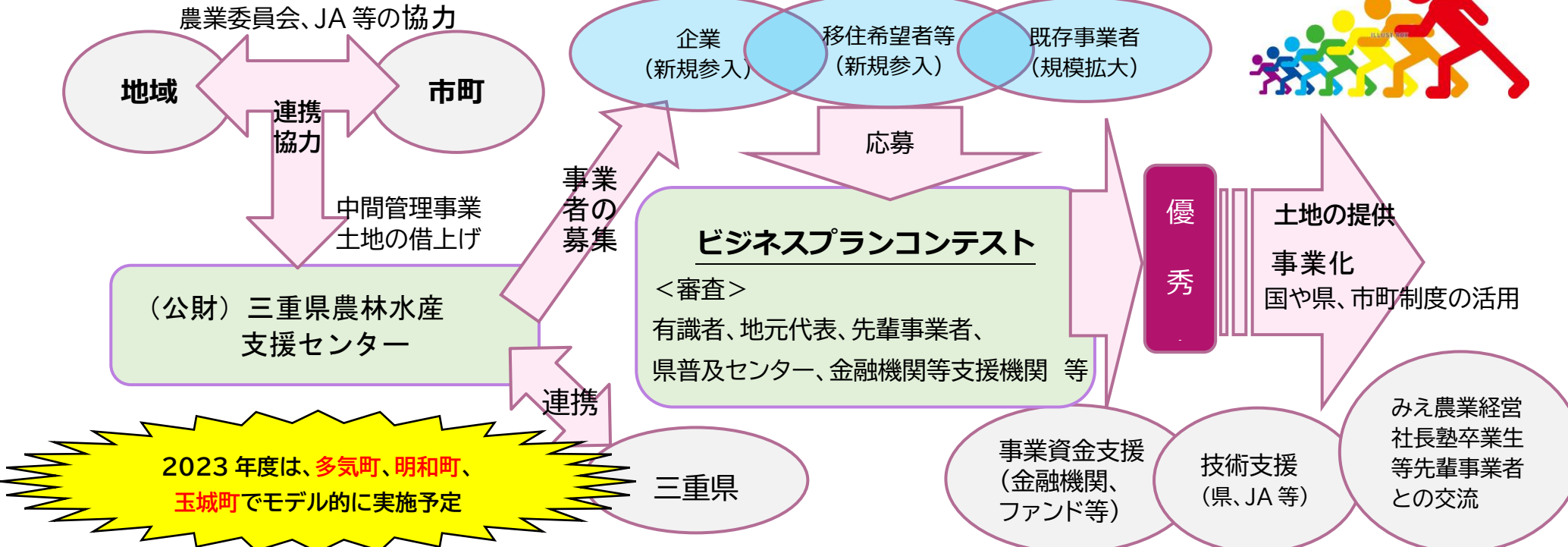
	各クラス合同開催	発展クラス単独開催
サロン①	日時 令和4年11月2日(水) 午後2時～午後5時 場所 三重県農業大学校 大教室 第1部 講演 「三重県農業の将来性と経営者理念とビジョン」 講師 三重大学大学院地域イノベーション学研究科 教授 西村 訓弘 氏 事例報告1 「農業経営に必要な経営理念とビジョン、そして心構え」 講師 株式会社浅井農園 代表取締役 CEO 浅井 雄一郎 氏 事例報告2 「有限会社深緑茶房のお茶や地域への熱い思い」 講師 有限会社深緑茶房 代表取締役 松倉 大輔 氏 第2部 名刺交換会 安定クラス単独開催	日時 令和4年11月28日(月) 午後2時～午後5時 場所 三重県農業大学校 大教室 第1部 講演1 「農業経営における経営戦略の重要性について」 講師 一般社団法人三重県中小企業診断協会 会長 井上 俊一 氏 事例報告1 一株万粒 ～人を育てることが最大の結果に～ 講師 有限会社木曾岬農業センター 代表取締役社長 古村 精康 氏 講演2 「伊勢から世界へ」 (講師プロフィールはサロンの参照) 講師 伊勢角屋麦酒 二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長 鈴木 成宗 氏 事例報告2 「農産物の特徴づくりと販売戦略」 講師 株式会社ボモナファーム 代表取締役 CEO 豊永 翔平 氏 第2部 意見交換会 各クラス合同開催
サロン②	日時 令和4年11月21日(月) 午後2時～午後5時 場所 三重県農業大学校 大教室 第1部 講演 「伊勢から世界へ」 講師 伊勢角屋麦酒 二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長 鈴木 成宗 氏 事例報告1 「マーケットや顧客を意識した商品づくり」 講師 サノ・オーキッド 代表 佐野 拓也 氏 事例報告2 「マーケットインに取り組む販売戦略」 講師 株式会社かきうち農園 代表取締役 垣内 清明 氏 第2部 意見交換会	日時 令和5年1月25日(水) 午後5時～午後8時 場所 三重県農業大学校 大教室 第1部 講演1 「農外から見た農業の「ここが魅力」 講師 株式会社フジ技研 取締役常務 鏡谷 有紀 氏 講演2 「小売事業者から見た魅力ある農産物」 講師 マックスバリュ東海株式会社 執行役員 営業本部第一事業部長 藤本 友也 氏 講演3 「儲かる農業の実現に向けたスマート農業システム開発の取り組み」【仮題】 講師 株式会社クボタ 機械研究開発第四部 部長 早川 義人 氏 第2部 意見交換会

みえ農業スタートアップ支援事業

2023年12月コンテスト開催予定!

農業の現場では、担い手の高齢化等により農業離れが進む一方で、異業種の参入や企業型経営体が増加し、若い世代を取り込む受け皿になりつつあります。しかしながら、企業や移住希望者等が県内に新規に農業参入するうえで優良な農地の確保が大きな課題となっています。そのため、農地の賃借を調整する農地中間管理事業を活用し、あらかじめ地域の合意を得て優良農地を確保した上で、農業ビジネスプランコンテストを行い、優秀プラン提案者に対して優先的に農地を貸し出すことで、企業の農業分野への新規参入や移住促進等につなげます。

<事業スキーム>



三重県農林水産支援センターへのアクセス&お問い合わせ

公益財団法人 三重県農林水産支援センター TEL:0598-48-1225(代) E-mail:info@aff-shien-mie.or.jp
 〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町530番地 FAX:0598-42-8221 センターHP:https://www.aff-shien-mie.or.jp/

<事務局からのお知らせ>

～地域連携ネットワークみえ活動報告会のご案内(リマインド)～

日時:令和5年6月10日(土)
 13:30 開場/受付
 開場:エビイロ(伊勢門本店 横)
 津市栄町 3-222 ソジアビル1階

第1部 講話 14:00～
 テーマ「地域に根差した経営と活動」
 講師 ぎゅーとら株式会社
 代表取締役社長清水秀隆氏

第2部 懇談会 16:30～
 会費 5,000円
 ビッフェ方式でお食事をしながら地域の課題や実態、対策などをフリートークで!



↑参加はこちらから



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薊町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



四季があるのはいいのですが、必ず迎える梅雨の時期は、やはり気が滅入ってしまう人が多いのではないのでしょうか。しかし、世界では干ばつに苦しむ国が多くあります。アフリカ北東部のソマリア、ケニア、エチオピアなどは2年間に及ぶ干ばつで多くの子供たちが飢えて命を落としているそうです。水害で苦しむところがあれば、水不足で苦しむところがある。世の中うまくいかないもので、大きな世界でも小さな世界でも同じですね。

さて、今回は株式会社ゼロの松山会長に投稿いただきました。ゼロは誰もが知る「月刊 Simple」を発行している会社です。

■ 怖いもの知らずの想い上がり、気持ちだけが前のめりのまま出発



(株)ゼロ 代表取締役会長 松山泰久氏

弊社が編集発行するタウン情報誌「月刊 Simple」が、今年秋、創刊44周年を迎えます。小石をひとつずつ積み上げるように「次」を目指して地道に歩み続けた結果、気付けば44年。

長いようであつという間の年月だったような気がします。

「三重の暮らし、もっと愉快地、もっと素敵に」をテーマに、読者のお役に立てる編集企画や取材撮影活動を続ける小誌のはじまりは、「ミニコミ紙」と呼ばれる情報媒体の存在を知り、生意気にも自分にもできるという勝手な思い込みからでした。

「しんぷる」という平仮名のタイトルではじまった Simple ですが、僅かな人生経験しか持たない若造の、怖いもの知らずの想い上がり、気持ちだけが前のめりのままの出発だったのです。

編集出版という仕事に対して、皆目知識のない素人の、それは実に無謀な挑戦だったのかもしれませんが。

創刊号は僅か20頁の、まるで小学生が作る「壁新聞」を綴じたような中身の小冊子でした。今、眼を通すと、懐かしさとともにその幼さ、稚拙さに苦笑いがこみ上げてきますが、同時に出来上がった日の嬉しさ、達成感が甦ってきます。しかし、同時に「つづける」ことの苦難のはじまりでもありました。当時「3号雑誌」、つまり3号出しておしまいと揶揄されていましたが、負けじと思いながらも持続と

いう難しさとの葛藤を繰り返す草創期から、3年5年を経て、やがて10年、20年。

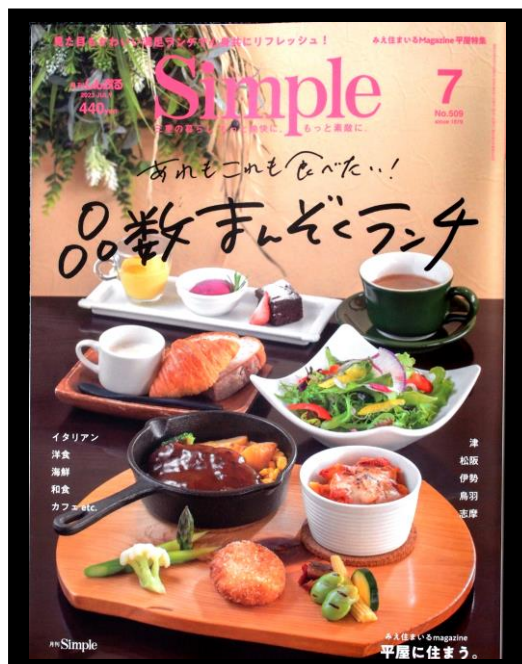
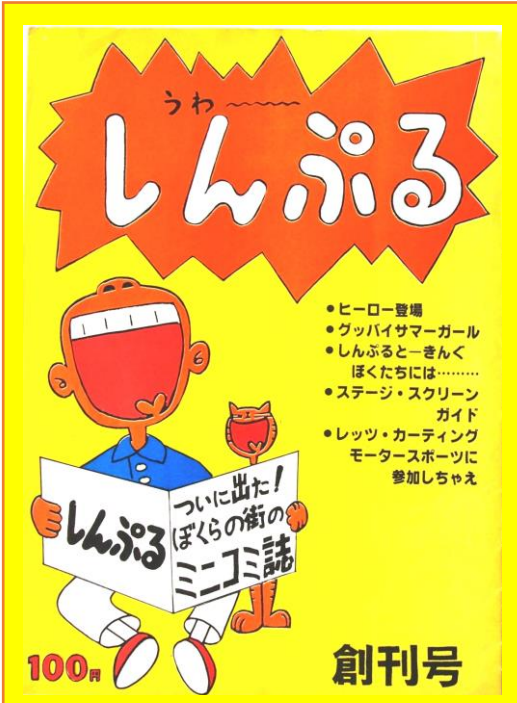
毎号、毎号試行錯誤を繰り返しながらも、実にたくさんの読者の方、取材先や広告主の皆さんそして販売店の方々の暖かいご支援のおかげで、まもなく44歳の誕生日を迎える日が近づいてきました。

その間、全国タウン誌コンクール「タウン誌大賞・奨励賞」も二度受賞という評価をいただきながら、たくさんの方々に手にとりいただける情報誌であるよう、毎月、毎号を通過点とし、スタッフ一同励みつづけてきました。そしてこれからも、地域に特化した暮らしを楽しく、素敵にする情報をお届けし、読者の方々に「やっぱり Simple がええなあ」と言っていただけの誌面づくりに、初心を忘れずスタッフ一同活動に邁進してまいります。

ところで Simple を創刊したのは私ですが、私を育ててくれたのも Simple なのです。

取材、編集活動をするなかで、たくさんの人々との出会から学ばせていただいたこと、また地元三重の歴史や文化、そして名所旧跡や気候風土など、現地に赴き知識を深めることが出来たことなど、積み重ねてきた経験のすべてが私を育ててくれ、いまの私をつくりあげてくれたと思うのです。

もし、あの日、情報誌を作ろうという生意気な挑戦をはじめなければ、いまの私も、Simple も存在しなかったでしょう…。



■ 出会いと学びから得た知識、知恵をもとにプロデューサーとして活動

いろんな体験は、官民間問わず実にいろんな企画・制作のプロデュース業務に携わることに結びついてきました。

なかでも、伊勢神宮内宮御鎮座二千年奉祝事業を展開するプロデュース業務や、第六十二回神宮式年遷宮のお木曳行事、御白石持ち行事をはじめ、凡そ八年に亘る広報活動やイベントの企画・実施に御遷宮対策事務局プロデューサーとして、尽力させていただいた経験は何ものにも代えがたいものだったと思います。



そんな蓄えてきた知恵と経験は「売るから売れる」をコンセプトに広告の企画デザインや店舗開発、ブランディング、マーケティング、販売促進など、事業成果を獲得するためのお手伝いに結びつきました。

コロナ禍の日々を過ごすなかで、人々の価値観はさらに多様化しましたし、景況が低迷するなかで消費動向も不確実性を帯びていますが、モノ、コト、サービスを現場で商う方々の少しでもお役に立てればと、鋭意務めさせていただいております。

また、物書きの実績を評価いただき、PHP 研究所が発行する雑誌、「歴史街道」をはじめいろんな媒体への寄稿や、神宮の歴史、文化に関する講演、伊勢志摩の旅の魅力をお伝えする講演など、多岐にわたる活動に走り回る日々を、楽しく過ごしています。 松山泰久



事務局だより

6月10日の活動交流会は大盛況！

久しぶりに開催しました活動交流会にはたくさんの方々にご参加いただきました。特に今回は、会員さんだけでなく、一般の方や大学生の方にも集っていただいたことで活気を得たと思います。



当日は、社会実習として三重県立看護大学の学生 6 名に参加いただき、交流会のお手伝いをさせていただきました。家族以外の大人の方との交流は初めてとの感想！ 今の地域課題を知っていただくいい機会だったと思います。



第1部では、代表よりこれまでの活動をご報告し、その後の記念講話では、株式会社ぎゅーとら代表取締役社長清水秀隆様から食品スーパーとして、地域のコミュニティーをいかに大切にしているか、ぎゅーとらの SDGs やスーパー運営で大切にしていること、お客様とのエピソードなどをお話いただきました。





2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



7月は梅雨明けの時期であり、本格的な暑さがやってくる季節です。梅雨(つゆ)の始まりを入梅(にゅうばい)、梅雨の終わりを出梅(しゅつばい)と言いますが、天気予報でよく耳にする言葉で「梅雨前線」は、「ばいうぜんせん」と呼び、「つゆぜんせん」と呼ばないのは何故でしょう。日本語は本当に難しい！ グローバルな時代、日本語を学ばれる外国のみなさんは苦労されているのではないのでしょうか。

三重県の県都である一文字の「津」も地名として相手に伝えるのは難しいかもしれませんね。伝えることの難しさは古今変わりませんね。さて今回は、常に住民に向けて市政の取り組みを発信し続けてみえる津市前葉市長のお取り組みを紹介いただきます。

新しいステージにおける津市の創造に向けたビジョンを紹介します

津市では、平成18年の合併後、一体感の醸成や均衡のとれた地域の発展をテーマに合併時に約束された事業を進め、概ね完了した段階にあり、今、まさに、新たなまちの姿を描きはじめるタイミングにあります。

人口減少や少子化といった課題や耕作放棄地を防ぐといった課題は、今、積極的な行動を起こさなければより厳しい状況に追い込まれます。決して現状に満足することなく、こうした課題に果敢に挑んでいく、そのスタートダッシュを、市民に最も近い基礎自治体として、どのような分野に照準を合わせていくのか。将来の津市政を展望し、新しいステージにおける津市の創造に向けた3つのビジョンのもと津市づくりを進めています。



津市長 前葉 泰幸

こども・子育て政策～こどもを生み育てやすい社会をつくります～

国が、令和5年6月に提示した「こども未来戦略方針」には、75年ぶりの保育士の配置基準の改善や児童手当の充実など歓迎する政策が盛り込まれましたが、残念なことにこれまで要望を重ねてきたこども医療費の無料化は含まれていません。こうした国が取り組まない領域においても、津市独自の新たな政策を構築していきます。

●保育人材の確保

保育施設の利用定員は、これまで入所希望者数の増を見据え、民間保育施設の御協力も得て、合併以降1,572人の定員増を図ることにより、待機児童ゼロを継続してきましたが、本年4月1日、合併後初めて、57人の待機児童が発生しました。最近、民間保育施設で、保育士等が確保できないことにより、定員一杯の児童を受け入れることができない状況が生じてきています。そこで、保育人材を確保するため、新たに津市の保育施設に勤務する保育士・幼稚園教諭等に20万円を給付する保育士・幼稚園教諭等就労開始応援事業を創設します。



●保育施設における使用済み紙おむつの回収・処分

公立及び民間保育施設における使用済み紙おむつの持ち帰りは、保護者の負担が大きく、保育士等においても管理やこども毎の振り分けを行うことへの負担が発生しています。使用済み紙おむつを保育施設で回収・処分する仕組みを構築し、保護者や保育士等の負担を軽減します。

●こども・妊産婦に対する医療費助成制度の拡充

既に中学生まで実施している子ども医療費助成は、窓口無料化を中学生まで拡大し所得制限を撤廃します。県内で唯一津市だけが実施している妊産婦の医療費助成についても、所得制限を撤廃し窓口無料化を実施します。

●1か月児健康診査の無料化

現在行っている妊婦一般健康診査、産婦健康診査の費用助成などによる妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に、新たに1か月児健康診査の助成を加えます。

●子育てにおける心身の負担軽減策の具体化

子育て応援ヘルパー派遣事業の創設を目指すとともに、男性の育児参加の促進にも力を入れていきます。周りに家事や子育てを手伝ってもらえる人がいなくて困っている方がいらっしゃる、そうした負担が少子化につながっていきます。女性の就業継続や第2子以降の出生割合は、男性の家事や育児の時間が長いほど高い傾向にある中、日本における男性の家事や育児の時間は低水準にあります。仕事と生活を調和させるワーク・ライフ・バランスも推進し、育児負担が女性に集中する「ワンオペ」の改善など、子育てにおける心身の負担軽減策を展開します。



●「こども基金」の創設の検討

出会い応援事業の拡充、教員支援員、スクール・サポート・スタッフ及び部活動指導員の増員、小中学校のトイレの洋式化率の更なる向上や放課後児童クラブの整備の加速化など現在取り組んでいる事業も拡充、深掘りし、出会い・結婚・出産・子育てしやすい環境づくりをより一層進めます。

こども・子育て政策を継続して展開していくためには、安定的な津市独自の財源が必要です。ポータル収益金を活用した「こども基金」の創設を検討します。

まちなか～価値を高め、土地利用の可能性を広げる試みを実行します～

●津駅周辺

津駅周辺は、駅から放射状に広がる津駅周辺道路空間整備広域ネットワークの構築に取り組めます。津駅東口はバスタプロジェクトが着実に事業化されるよう国や県と連携を密にし、回遊性の強化や賑わいを継続していく仕組みづくりの検討を進め、津駅西口の整備に向けては、令和4年度から取り組んできている基本構想の策定を完了させ、地域意向の確認に入ります。同時に、生まれ変わった津駅とそれにつながる道路網が相互に機能を発揮できるよう津駅とつながる広域的な道路ネットワークづくりを先行して進めます。大谷踏切の拡幅によって新たに生まれる車の流れ、それにつながる三重県が建設する志登茂川河口架橋の完成を最大限に活かした車の流れをイメージし、津駅前と志登茂川河口架橋を結ぶ「津駅前線」に加え、リニア中央新幹線の三重県駅も見据え、「広明町河辺町線」及び「内多清水ヶ丘線」も拡幅します。また、津駅北において鉄道と立体交差する「下部田垂水線」については、構想の具体化に向けて動き始めます。

リニア中央新幹線の三重県駅の開駅は、津市の新たな可能性を拓きます。津市、鈴鹿市、亀山市の市民にとって利便性が高く、地域経済の活性化につながるような三重県駅を中心とした広域的な都市づくりに対する意識を深め、鈴鹿市、亀山市と連携しながら市境にとらわれないまちを展望し、実現に向けた取組を進めます。



津駅周辺道路空間整備広域ネットワーク

●大門・丸之内地区

大門・丸之内地区は、未来ビジョンに基づく新たなまちづくりに挑戦します。エリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」を主体に、立町・大門大通り商店街の道路や丸之内商店街エリアの国道23号を活用した恒常的な人の流れや賑わいを創出するトライアルな取組を開始するとともに、津城跡については、未来にどのような姿を引き継いでいくのか、まずは、ホームページや広報津を通じた情報発信を行い、市民等から意見を伺いながら検討を進めます。そして、中長期的な視点から地権者等の将来的な意向を踏まえたまちの実現に向けて都市計画を見直し、多様な土地利用を可能にします。



未来の安心～森林や農地を次世代に引き継ぐとともに、新しい産業用地をつくります～

●農地

令和5年度から将来における地域の農業の在り方や農地利用の姿を明確化する「地域計画」を定めることとなりました。津市は令和6年度までの2年間で農業者、関係機関等と協議を重ね168地区で計画を策定し、それらを実行に移すことで新規就農や経営継承等への支援を促進し、担い手の確保・育成を行います。



●山林

津市は全国トップクラスの速さで森林経営管理制度の取組を進め、令和元年度の芸濃地域を皮切りに実施してきた経営管理意向調査は、令和5年度に全地域に至ります。森林の現況調査及び所有権の明確化、間伐の実施などをさらに進めるとともに、津市産の木材を主要部材に使用して新たに建築する木造住宅に対する支援等を行う木材利用促進事業もより一層推進します。

●産業用地

中勢北部サイエンスシティ、ニューファクトリーひさいにおける企業誘致が完了し、現在は民間の遊休地への誘致を図っていますが、人口減少対策における社会増に向けては、雇用の場を確保することが最も重要です。新型コロナウイルス感染症の拡大により一時的に産業用地の需要は減少したものの、現在は投資意欲のある企業や工場等の建て替え・増設を計画している企業からの問い合わせが増加傾向にあります。この流れを掴みニーズに応えるべく、柔軟かつ迅速に対応できる用地開発のノウハウや資金力等を持つ民間事業者が主体となった産業用地の整備を進めます。



<トピックス>

政府は二酸化炭素の排出量に応じて企業などがコストを負担する「カーボンプライシング」の制度の導入などを速やかに実行できるよう新たな戦略を、7月中をめどに策定するとのことです。

県内でもグリーンカーボンやブルーカーボンを捉えてJクレジット制度の活用に取り組まれているところもありますが、その手続きには一様に苦労されています。意識はあっても取り組みに躊躇しないよう大胆な制度改革も期待したいですね。